

ガンビア国の若年雇用創出と持続的な平和構築



背景



ガンビア*では22年に及ぶ前政権からの政治的移行が喫緊の課題である。前政権下で疲弊していた経済状況は、2016年のエボラ出血熱危機により一人当たり国内総生産(GDP)成長率がマイナス0.84%に落ち込み、加えて2017年の政情不安によりますます悪化した。高い失業率も一層上昇し、2017年には29.8%、若年層では43.9%を記録した。

就労機会が乏しいガンビアでは非正規移民が後を絶たない。国際移住機関(IOM)の支援により帰還した移民は3千人を超え、この数字は当初予測の6倍である。このような差し迫った危機に対応するため日本政府が出資する当プロジェクトはインフラ建設での雇用機会を創出し、ガンビア社会が持続的な平和を構築する手助けをする。2018年4月-2019年4月の活動実施期間を通じて、40年以上にわたりILOが培った雇用集約型投資(EIIP)の経験を活用することで雇用機会を最大限に拡大する。

*西アフリカに位置し、面積は岐阜県とほぼ同じ。人口約204万人 (2016年世銀)

プロジェクト戦略

目標: 帰還民や女性に焦点をあてた若年雇用創出。
地元のリソースを活用したインフラ建設、エンプロイアビリティ(就業能力)育成、起業家支援を通じて、ディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進することで、社会の安定化と持続的な平和を構築する。

当プロジェクトは雇用集約型投資(EIIP)手法を用いて、インフラ建設関連の雇用を迅速に創出し、技能の熟練度に関わらず多数の雇用機会を提供する。経済成長を牽引する農業、ツーリズム、漁業部門に直接的に貢献するインフラを厳選し、地元で入手可能なリソースを活用する。また技能訓練、起業家支援の実施によりプロジェクト効果を持続可能なものとする。加えて、労働安全衛生(OSH)や、帰還民と女性の包摂による平等と相互理解の促進を通じてディーセントな雇用創出の重要性を強調する。

雇用集約型投資(EIIP)

EIIPは、雇用機会の最大化と現地のリソース(資金・資源)の活用を目的としたILOの投資手法のひとつ。EIIPはインフラ開発を、雇用創出、貧困削減、現地の経済・社会開発と結びつけることで、必要な雇用、収入、コスト削減、外貨貯蓄をもたらす、地域産業振興を支援し国の能力強化を行う。

期待される成果

雇用創出

- ・帰還民や女性に焦点をあてた若年雇用創出
- ・インフラ建設により刺激される経済成長
- ・雇用集約型投資手法を織り込んだ技能開発

ディーセントワーク推進

- ・建設分野の水準を上げるためのディーセントな労働条件の推進
- ・労働安全衛生(OSH)の推進と実施

エンプロイアビリティ(就業能力) 起業家支援

- ・労働集約的な建設作業推進のための実践的な訓練モジュールの開発
- ・労働市場への統合促進
- ・企業開発ツールの普及